

【子どもとメディア研究部会】

若者の体験を聞きました

今年度は学習が続きましたが、2月（第12回部会）と3月（第13回部会）は卒業生と現役の高校生にケータイの使い方を聞いたり交流をしました。

安中高校の卒業生（2名）

高校時代はメールが中心で、ケータイを手放せなかった。一日500件くらいメール交換をしていた。（同じ人が多かった）。ネットは通販、ゲームサイト、無料の掲示板、プレーヤー（音楽のダウンロード）、ケータイ小説、ニュース（新聞より情報が速いし、読みやすい）、お財布ケータイ、時刻表、映画情報、などで使った。ブログ、プログもやった。（やり方は友達に教わった。自分の知らないところでブログに載ることも。中傷のようなものもあった。ケータイをもっていない人が載ることも）。ほかには目覚まし、赤外線機能でアドレス交換や画像交換をした。料金は8000円くらい、バイト代で払った。勉強の妨げになったか？の質問には、なつたと答えた。現在二人はケータイを手元に置く時間が減った。メールが来てもすぐ返事をしない—メールは急用ではないので。今は一日20～30件くらいの交換。テレビもほとんど見ない。年賀状のやり取りが無いので寂しく思うこともある。今の高校生を見ていると、あーはなれないと思う。現役へのアドバイス—遊べる時代なのでそうしたほうが良い。（二人が通った専門学校は厳しかった）。

西邑楽高校の生徒（5名）

手にした時期は外出が多く親から持つようにいわれて小6から。部活帰り遅く連絡用に。スイミングに通っていて送り迎えになど。使い方はいろいろやってみて覚えたり自分で研究。日常的にはおもに友だちとの連絡にメール。芸術科美術コースなのでカメラを使う。そのほかはゲーム、インターネット、チャット、目覚まし。料金は、親が払っているから分からない。3,000円くらいと5,000円くらい。また、携帯がなくてもあまり困らないとのこと。「普通の高校生とは私たち違うかも」と話していました。連絡が付かないのは困るけど直接話す方が好き。ケータイを持たない人もおり、親と共有している。メールもだれから来たのかわかるから大丈夫。学校は持ち込み禁止で使えないし無くてもぜんぜん平気。部会としての分析はしていませんが、安中高校の卒業生が現在おこなっている“大人の使い方”をしているのが西邑楽高校生という感じです。今回の話も参考にしつつ、さらに若者の利用方法に耳を傾けながら、部会としてもメディアの問題をさらに深めていきたいと思います。（文責・平井 敏久）